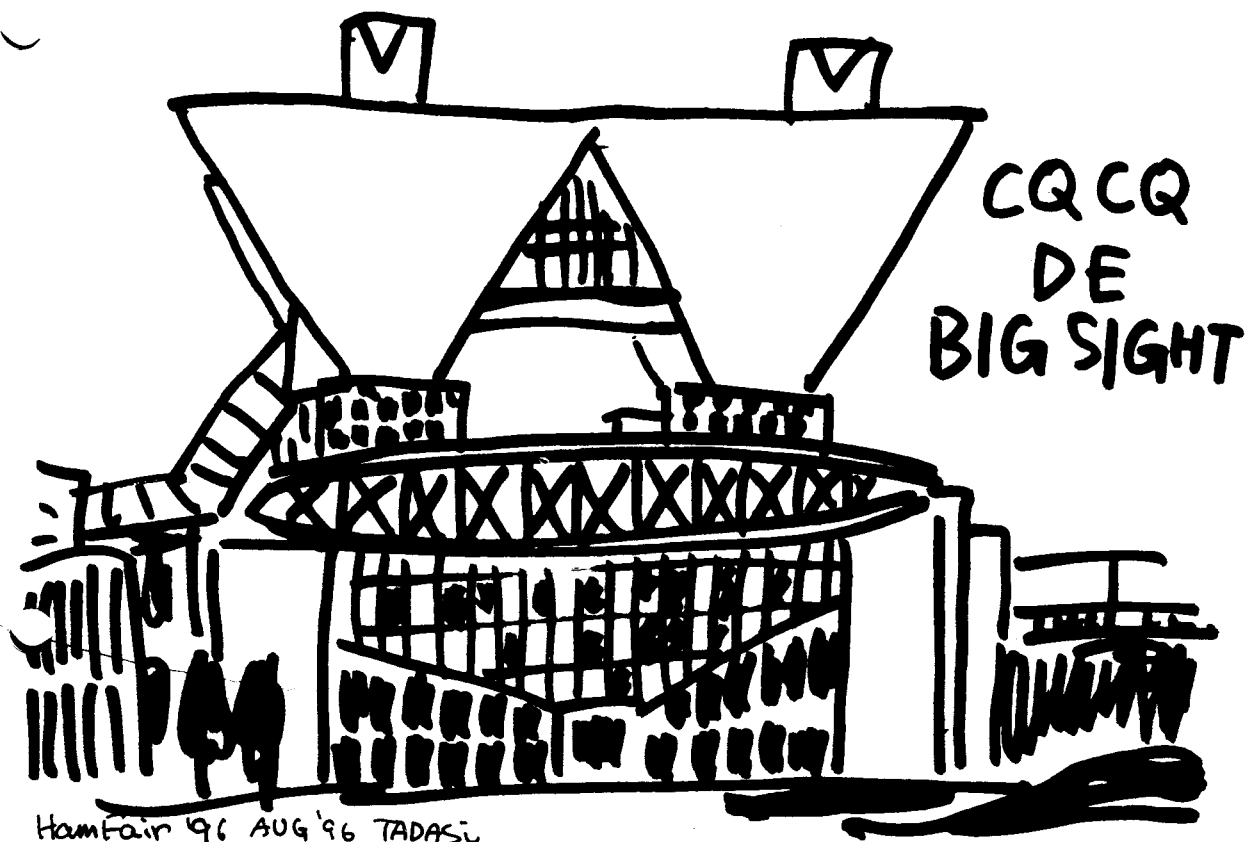


THE

FANCY CRAZY ZIPPY



CONTENTS

乗点 減っている
EVER 599 (2)
7MHz CW トランシーバ (3)
ホテル モドキ
サイン 波 振 振 振 (4 可 考)
読者 通信 雑 記 帖

249.

AUG · 1996

弱い信号・QRM,QRN
があっても常に599!

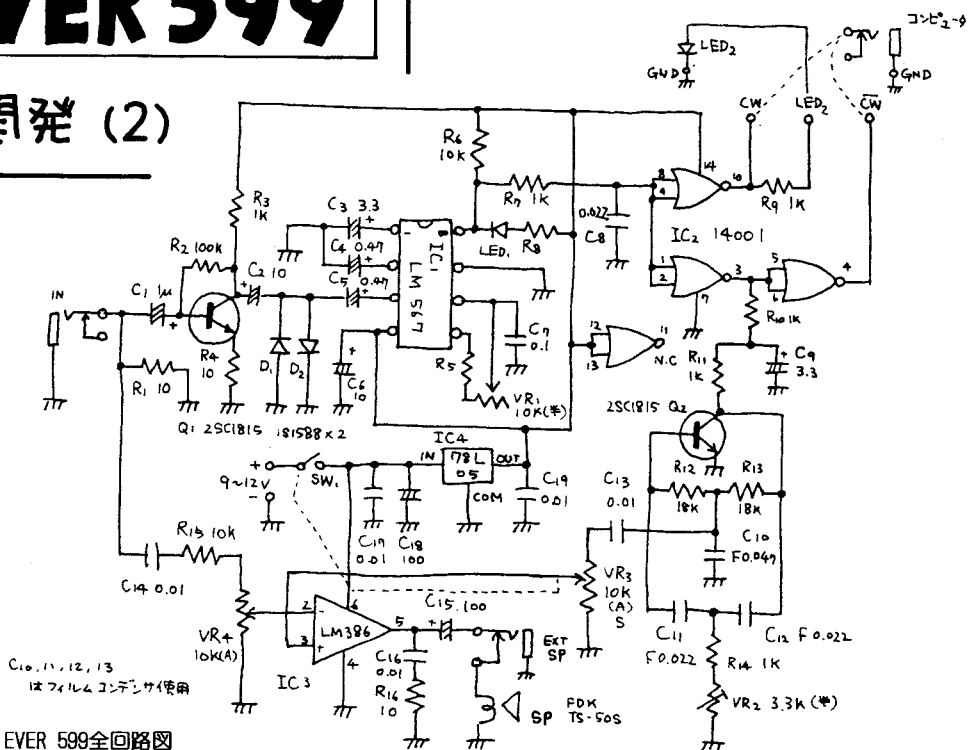
EVER 599

の開発 (2)

変

247 号の回路を第1 図に示すように一部変更しました。

①IC2 の負荷を軽くするためインバータとしての作業をIC2-1 と2-3 に分散させました。(遊んでいた部分の



<第1図>EVER 599全回路図

減っている

最近アマチュア無線をやっている人達が減っているようです。

その原因は①携帯電話の普及、②コンピュータ (インターネット) の普及、③遊びの多様化、等々が考えられます。

確かにアマチュア無線業界はかなりの不況に陥っているようです。このままでは……と深刻に心配する向きもあるようです。

ここで逆転の発想です。

今、減って行ったアマチュア無線人口は本質的にはアマチュア無線の領域外の人達だったのです。

そしてこれから一年後、「その時アマチュア無線を続けていた人が本当のアマチュア無線家である」



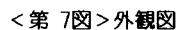
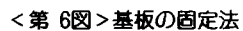
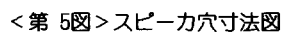
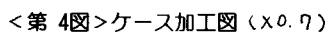
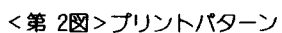
と考えるのです。いろいろな事はそこから考えればよいのではないのでしょうか。

例えば、運用できるパワーの上限を引き上げてアマチュア無線の魅力を引き出そうと考えたりしなくてもアマチュア無線には本質的

な楽しみがあり、それを求める人達が入門してくるのだと考えるのです。人数が少なくなると確かにメーカーは困ると思います。JARLもその運営に困る事が出てくるでしょう。しかし、本当のアマチュア無線をJAIに根付かせるにはこうするほかないのです。今までの方針で手直しして行く限り現在示されているベクトルに従うしかないのですから……。

「人数が減っても楽しみは増えて行く」アマチュア無線を目指すのです。10年先を楽しみに……。

②C8を0.1 μ F から0.022 μ F に変更しました。
このコンデンサの容量は大きくなるほど雑音を消す能力は高まるのですが、早い信号の短点に追いつきにくな



る性質があります。(カスレが生じやすくなります)
0.022 μ F と0.1 μ F を切り替えスイッチで切り替える
という方法も考えましたが、0.022 μ F でまず問題はな
さそうです。

製作

①プリント基板及び部品取り付け図を第2,3 図に示し
ます。

②ケース加工図を第4,5 図に示します。第4 図はケ
ースの外側から見た図です。キットのケースには穴が開
いていませんから自分で開けていただきます。

スピーカはケースの蓋の方に取り付けてください。
絶対位置は問いません。相対的に第5 図に示すような穴
を明けてください。

③プリント基板のケースへの取り付けは第6 図のよう
にして下さい。スピーカはケースの蓋にネジ止める
際、ケースと蓋の間に適当な布を挟むと格好がよくなり
ます。

⑤LED1は入力信号を直接デコーダに通した場合の反応
を示し、LED2は上記の信号を積分回路に通して雑音成分
を取り除いた物の反応を示します。したがって両者の反
応の差が雑音成分となります。好みによってはLED1を

省略しても使用上の問題は生じません。

⑥コンピュータへの出力はCWとCWの二つがあります。
ソフトとの関係でどちらかを選択してください。

使用法

①電源をつなぎ、親受信機の外部スピーカの出力を本
機の入力回路につなぎます。電源をONにすると共にVR3
を適当に回しておいてください。

②IC1 の8 番ピンをアースに落とすとモニターの発振
音が聞こえます。VR2 を回してご自分がモールス信号
を聞くのに一番都合のよい周波数に調整してください。

③VR4 (バックグラウンドノイズ) を適当に上げてど
こかの局のCW信号を聞き、②で調整した周波数に合致さ
せます。

④VR1 をゆっくりどちらかに回していくとLED1, 2が反
応して、スピーカからバックグラウンドノイズではなく
②で調整した音でCWが聞こえてきます。

⑤あとはVR3 とVR4 を適当に調整してご自分の聞きや
すい雰囲気で使用してください。

⑥聞き方のノウハウとして、VR1 を1kHzから上にセッ
トするとノイズの影響を受けやすくなります。600 か
ら800Hz 程度にセットするのが良いでしょう。

寺子屋シリーズ卒業講座(11)

7MHz・CW トランシーバ (3)

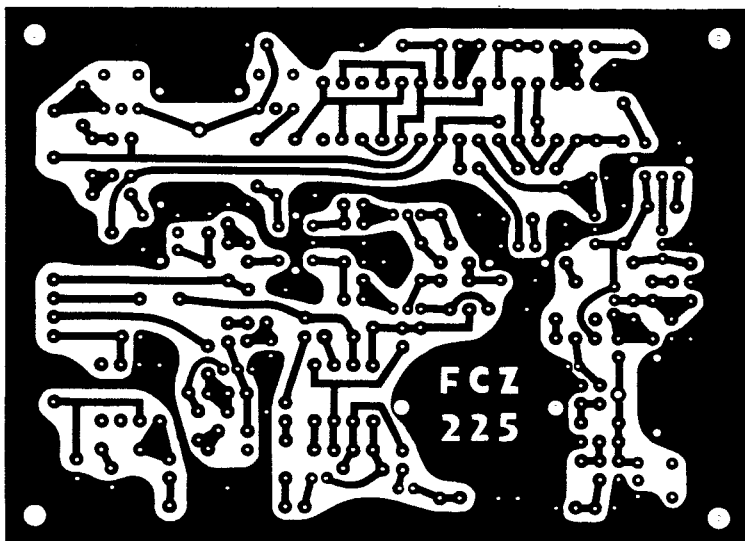
プリント基板

ブレッドボードでのトランシーバ
をなんとかまとめることができました
ので、いよいよプリント基板の設
計に入りました。

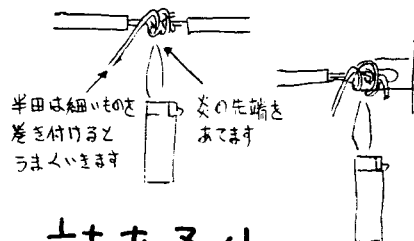
トランシーバは大きく、発振部、
送信部、受信部という部門に分ける
事ができます。この大きな組織を
一枚の基板にまとめる事は結構難し

いものでした。特にQ8とQ9の向きが反対になる所などは
デジタル回路の常識からするとかなり外れた物になりまし
た。

この欄は「寺子屋シリーズ卒業講座」という名が付い
ていますから、是非皆さんも基板のデザインをしてみてください。
—つづく—



<第1 図>7MHz・CW TRX 基板



読者通信

板橋区 柳沢幸男さん

皆さん、アウトドアでの半田付け作業はどんなさっていますか？ 半田付けは半田後手がなくても出来るのです。要は繁多を短時間に融点以上に熱する事が出来ればよいわけです。私は100円ライターと1φの糸半田でカットのような方法で半田付けをしています。一度お試し下さい。

JS1BVK/2山田哲也さん

寺子屋シリーズ129の調整のアドバイスを受ける為、毎週日曜日にFCZ LAB.へ通った1986年、ノーラはお店のどこかにちょこんと座っていました。今年の新春初売りの日もニヤーとなきながら背中を私の足にすり寄せてきました

私の手元に一枚の写真があります。写っているのは今井さん、大久保さん、児玉さん、近藤さん、私、山本さん、大野さん。そして今井さんの腕の中にはノーラがいます。このときも餅つきミーティングだったと思います。

JA3UIM/1寺田伸一さん

ノーラは結局戻らなかったのですね。私の知っているノーラは、いつもおとなしく寝そべっていただけに、余計「もののあわれ」を感じてしまいますね。引き際をわきまえているところは、人間よりも数段勝っているようです。

先日、初めて上高地から奥へ足を踏み入れました。よく人から聞かされる小梨平、徳沢、横尾、沼沢、ザイテングラードなどという部品が、ようやく頭の中で回路に組み上がりました。天候に救われ、どうにか奥穂高登山に成功。槍ヶ岳、笠ヶ岳、立山はいうに及ばず、富士山から白山まで見える最高のパノラマを堪能してきました。先月は雪取にも登り、100名山病というのに感染したかも知れません。穂高の写真、インターネットに入れました。 <http://www.airnet.or.jp/~terada/hotaka.html>です。

PS. 月に一度、あるいは二月に一度Noアポイントデーがあると良いのと思うのですが……。

読者のみなさんのハムフェア

ぜひお立ち寄り下さい

JR1WG海老名レピーター管理団体

JK1NMY諸橋清次、他 JF11UA, JR1BWQ. レピーター管理団体としての啓蒙活動を行います。特に電波障害（フィルタの設計、製作）のご相談に応じます。会員持ち寄りのFBな無線機器の販売もやります。

はちのへ無線手造り愛好会

・出展者 (C099) JA7BIJ/月館 弘勝
・会員手造り作品の展示と頒布 / 15回目の出展
・ジャンク販売/古いのは私だけではございません。
懐かしさ、いっぱいのごみ?を今年も満載します。
・会場でのアイボールQSOを宜しくお願いします。

ミスホ通信株式会社

出展担当: JA1AMH 高田 継男
内容: 製品展示とハムフェアオリジナル小物パーツ、小物キットなど、お気軽にお立ち寄り下さい。

さがみ野アマチュア無線クラブ

JJ1SCK岩松敏則 FCZ のスーパーローカルからの参加です。リサイクル運動の一貫としていろいろな物の再利用販売を行います。あわせて自作クラブの展示販売も行います。是非覗いて見て下さい。

JARL QRP CLUB

JH1HTK増沢隆久ほかQRPクラブオールスターキャスト 今年創立40周年。CQ出版から「QRPハンドブック」を発行。「サイン本」QRPのブースでサイン券を貰ってからCQ出版で買い上げ下さい。

257名 電波機器 ARC

代表者 JL1WRR 関矢洋司
ハムフェア自作品コンテスト4年連続優秀賞受賞者である JP1FZTくどう氏にお無線機等の自作相談を予定しています。



奥山さんの夢

1980年暮、それまで5年間続いてきた電波科学の「QRP アクティビティ」というコラムが無くなりました。そのコラムはその当時の電波科学の編集長であり、また、QRP CLUBの会員でもあったJA1BN 谷さんの企画で、会長の増沢さんと私が交替で担当していた物でしたが、マスコミ誌に毎月約2ページの「QRPの宣伝」ができていたのですからQRPファンの燈台的存在であったといえましょう。

燈台の日が消えて暫くして、それをバトンタッチするかのようモービルハム誌から「QRP アラカルト」というコラムを発足するという話が持ち上がってきました。そして、そのライターをQRP アクティビティから引き続いて、増沢さんと私の二人、共同でやってほしいという依頼をモービルハムの川合編集長からいただきました。

そこで増沢さんと相談したのですが、「今までの筆者で引き継ぐことはQRPについてのマンネリを引き継ぐことにもなる」と言う事になり、新しい筆者を探すことになりました。

そこで白羽の矢が当たったのがJA1EVK奥山さんだったのです。

彼は初めのうち「原稿なんて書いたことがないから…」と断っていましたがなんとか承諾してくれて、1981年5月号からの連載が始まったのでした。

彼のQRPは「がむしゃらな運用派」というのではなく、どちらかという私と同じ「ヘソ曲り派」だったと思います。

山小屋でウヰスキー（彼の場合はこの「ウ」でないと感じがでない）を飲みながら……、「ネエ、定電圧レギュレータの真ん中の足にプラスの電圧をかけると、出力はその分だけ上がるよね」「ウン」「それじゃ、そこにマイナスの電圧をかけたらどうなると思う？」「その分下がる…？」「もし下がるとしたらAMの変調器になるよね」「ウン、これはおもしろい！ やってみなくっちゃ

そんな話をしながらも、夜中に懐中電灯片手に山のテッペンに登り二人でQRPを楽しんだこともありました。

そんな具合ですから話も活動的でおもしろく、「QRP アラカルト」の方も段々と油がのってきました。

そんな彼が1983年の秋ごろ「大久保さん、JAでもQRPハンドブックを作りましょうよ」と言い出したのです。

そして、その時すでにスケルトン（骨組み）まで考え始めていたようでした。

しかし、1984年の春、彼の体を「急性骨髄性白血病」という病が蝕み始めたのでした。ベッドの中にあってもなおふた月、「QRP アラカルト」の記事を書くという律義な彼も病魔には勝てず、同年10月15日朝、帰らぬ人となってしまったのです。

余りにもあつけない話でした。もう少し時間があれば、彼の夢であった「QRP ハンドブック」の構想を具体的に聞き出せたのかも知れませんが……。

あれからすでに12年の歳月が過ぎました。

奥山さんの構想からだいぶ遅れてしまいましたが、QRP CLUB 40周年記念の今年、編集委員会のご努力で、ようやく「JAのQRP ハンドブック」が日の目を見ることができるようになりました。

QRP CLUBの40周年を全会員と共に祝うと共に、その歴史の中に、奥山さんのこのような「夢」があったことも改めて思い出しました。（同文QRP CLUB会報）

昔の夏

長野県原村で天体望遠鏡のショーがあるというので出掛けました。

座間を出るときは曇っていたのですが、笹子峠を越えたところで青空がでてきました。

中央高速を小淵沢で降りて信玄の棒道に入り、緑の林の中を行くと、そこには昔の「夏」がありました。

こういう緑に遑うと「最近まともな夏に逢って居ない」事がつくづく感じられます。

そのうち霧が出てきました。やがてその霧から絞り出された水滴が落ちてきたと思うと、次の瞬間、「ザーツ」と言うタ立になりました。

これも「昔のタ立」でした。

タ立の後のカーンと澄んだ星空を期待したのですが、その夜は残念ながら木星がちよっと見えただけでした。

それでも「昔の夏」「昔のタ立」が今でもあるところにはある事を確かめる事が出来たのでした。

次の日は身延山の久遠寺に登り、蒲原のMHNの両親のお墓参りをして、MHNの姉さんの家で昼御飯を御馳走になり、昼寝をしてから言えに帰りました。

山梨県の白根町で買った桃「白凰」は絶品でした。

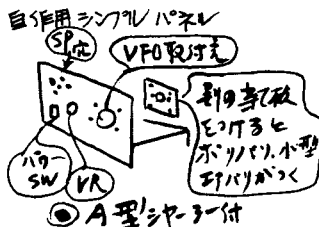
ハム7E3'96

ミズホのブースへお寄り下さい。

●受信機を自作するときに利用下さい。

商業はラジオや短波の受信機にス
リたiggバリコンその他を取りける
ハコル加工が大変と手をとねて
いる人もこれが少くは百人力です。

- ・ 鉱石 (シリカラジオ) ・ FET を使ったオートゲイン VFO-7DE を使ったタイルクトコンバーション LA1600 使用のスーパーヘテロダイン 電池管を使ったラジオ手この シリアルパネルを用いると手軽に製作が楽しめます。



◎ B型パネルのみ

今回予約5-26にて
限定各100台分

そのほか QP-7 と
4630 kHz エア・ゾエ
イオン用にアレバ J
3 ための資料パーツ

受信用ルツアゲ
ナミ自作するための
バカ・BOX ルツ・
ダイヤ・キット等

その他大物の作品はあ
せんが小さな楽しみを
つけて下さい。

Mizuho

ミズホ通信株式会社

194 東京都町田市高ヶ坂1635

TEL.0427-23-1049

HamFair'96で会いましょう

只今、夏休み返上で
右の絵の箱の中に
並べるキットを一生懸命
作っています。



記念品贈呈

本誌4,5頁下部にある読者シールを切り取り、住所、氏名、コールサイン、読者番号(読者店)を記入した紙(QSLでも可)に貼り、会場に御持参下さい。先着150名様様に記念品をさしあげます。

有限会社

FCZ研究所

〒228 座間市東原4-23-15 TEL 0462-55-4232 振替 00270-9-9061